

共通論題

アジアで民主主義は後退しているか

Do Democracies Decline in Asia?

世界各地で民主主義の後退が指摘されている。国際 NGO フリーダムハウスは 2016 年にすでに、世界の自由と民主主義は「この 10 年間で世界的に後退した」と警鐘を鳴らしていたが、2017 年には「冷戦終結後、最も深刻な状況にある」と危機感を強めている。欧米先進国における経済格差の拡大、中国をモデルにした新興国の強権政治化が、その背後にある要因として挙げられている。2017 年初の米トランプ政権の誕生を背景に、ハーバード大学の政治学者レヴィツキーとジブラットはアメリカの現状を南米や欧州の歴史的経験と比較して「民主主義の死」を論じる話題の書を発表した (**Levitsky and Ziblatt (2018) *How democracies die? What history reveals about our future***)。彼らが民主主義を安定させる要素として重視するのは「規範」である。それは、たとえば、政治指導者が政治的競争に対して相互に寛容さを保つことであり、行き過ぎた権力行使を自制することだという。

さて、アジアにおける民主主義の現状はどうだろうか。民主化が比較的早かった国、あるいは、これまで民主主義国だと思われてきた国で、政治的自由が低下し、政治指導者が競争に対する寛容さや権力行使への自制を失っていく現象が現れてきているのではないか。もしそうだとすると、それは世界的な民主主義の後退傾向と軌を一にする現象なのか、それとも、独自の文脈のなかで捉えられるべきものなのか。本セッションでは、タイ、フィリピン、インドを取り上げ、他国との比較も交えながら、アジアの民主主義にみられる現在の動きをどのように理解したらよいかについて考えてみたい。

司会：浅見靖仁（法政大学）

報告 1：Thongchai Winichakul（アジア経済研究所）タイ：

Fear of Democracy in Thailand: Who is Afraid of Whom?

報告 2：日下渉（名古屋大学）フィリピン：

**Complicity of “Good Citizens” and Extrajudicial Killing in the Philippines:
A Neoliberal Outcome of Democracy**

報告 3：中溝和弥（京都大学）インド：

Melting Democracy: Strong State and Vigilantism in India

討論 1：浅見靖仁（主に報告 1 と 2 に対して）

討論 2：湊一樹（アジア経済研究所）（主に報告 3 に対して）